

# 『養液栽培による高糖度トマトの周年栽培』

< 日本一の高糖度トマト産地をめざして >

【産地名 JA大井川アメーラ会 高糖度トマト（静岡県）】

産地データ（H15年）

対象品目名	トマト
産地の名称	アメーラトマト
作付面積	4.46ha
主要作付品種	桃太郎ヨーク
作付農家戸数	6戸
出荷(販売)量	186t/年間
販売額	206百万円/年間
出荷(販売)先	京浜市場4社、中部市場3社、関西市場5社



## 1. 産地の概要と特徴及び課題

大井川町は大井川河口左岸に位置し、東は焼津市、北は藤枝市に接し、南は駿河湾に面する平坦な水田地帯です。年間平均気温16前後、年間降水量2,000mmで冬季降雪がほとんどない温暖な気候で、古くからトマト、キュウリ、イチゴ等の施設園芸が行われています。トマトは昭和38年に「志太の冬春トマト」として野菜指定産地となっておりますが、近年農業者の高齢化、後継者不足により急速に衰退しつつあります。

アメーラ会は、県農業試験場とトマト生産者で研究を進めてきた根域制限栽培を応用した養液栽培システムにより、高糖度トマトを生産する農業者の共同販売組織です。これまで大井川町をはじめ静岡市、沼津市の会員5戸で栽培してきましたが新たに1戸が加わり、平成14年度に輸入急増農産物対応特別対策事業により、大井川町内の農地をまとめて借入れ、4経営体が2.49haの生産団地を整備し、産地規模が拡大されました。

対象品目の作型（生育ステージ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
作業	定植		収穫									
16区画で時期を変えて周年栽培しています												

## 2. 産地改革計画の概要

策定対象品目名	トマト	該町	大井川町
策定年月	平成14年3月	当村	
策定主体名	JA大井川アメーラ会	市名	

### (1) 計画の全体概要（要旨）

アメーラ会では、他産地及び輸入品との差別化を図るために、付加価値の高い高糖度トマト生産を開始し、技術改良を進めています。しかし、生産量が少ないために需要に対応した販売が十分できないことや、夏期の尻腐れ果発生等、栽培技術面でも問題を抱えています。

そこで、国際競争力のある野菜産地の構造改革を図るために、これまで積み上げて

きた技術を応用し、以下の方法を実施することで高付加価値トマトを安定生産します。  
 付加価値の高い高糖度トマトにより他産地及び輸入品との差別化を図ります。  
 産地イメージを上げるために、排液ゼロの養液システム化、茎葉残渣の堆肥化や有機培地利用など環境に配慮した生産を行います。  
 人工光閉鎖型苗生産システムや根域制限栽培施設を導入し、周年安定生産と規模拡大（ロット確保）により、有利販売や契約販売を推進します。  
 低コスト省力施設導入や播種・育苗、出荷調製等、作業の共同化により、安定的かつ低コスト生産を行います。

(2) 具体的な目標

高付加価値化タイプ

- ・高糖度トマト栽培面積の拡大

1.49ha 4.61ha

- ・計画生産と栽培技術（生理障害対策、給液方法等）向上による生産量の増加

93t 400t

- ・資材の共同購入、作業の共同化による生産コストの低減

985円/kg 966円/kg

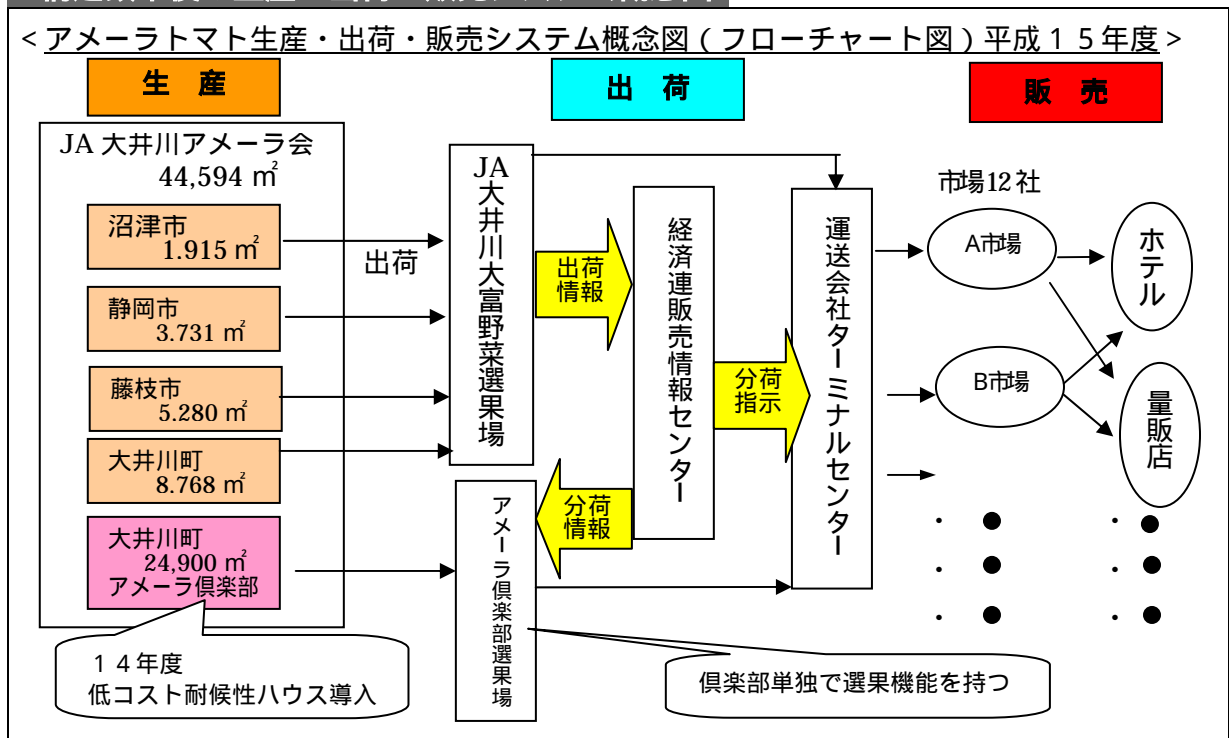
3. 産地改革計画の実行状況とその成果

平成14年度に輸入急増農産物対応特別対策事業を利用し、低コスト耐候性ハウス2.49ha導入するとともに、平成16年10月には新規会員の加入で27a栽培面積が増えたため、現在の産地面積は4.73haと、当初計画の目標を達成しました。

また、新しいハウスの喚気方法や人工光閉鎖型苗生産システムの導入により、夏場の生産安定と高品質化、計画的出荷が可能となりました。

さらに、資材の共同購入により購入単価が低減されるとともに、各種作業の共同化、機械化により作業効率が向上し人件費等の生産コストは低減されています。

構造改革後の生産・出荷・販売システム概念図



産地改革に係る補助事業等の実施状況（平成14年度以降）

国庫補助事業

年度	事業名	事業主体名	事業内容	事業費	国庫補助金
14	輸入急増農産物対応 特別対策事業	J A大井川アメリ ラ会	産地改革推進協議会の開催 販売戦略検討会の開催 市場調査	(百万円) 0.31	(百万円) 0.14
		営農組合アメリ ラ倶楽部	低コスト耐候性ハウス 2.49ha 育苗施設 663m <sup>2</sup> 荷造り調整施設 300m <sup>2</sup> 農業廃棄物処理施設480m <sup>2</sup>	3.38 5.3 2.0 8	1.99
15	輸入急増農産物対応 特別対策事業	J A大井川アメリ ラ会	産地改革推進協議会の開催 販売戦略検討会の開催 マーケティング調査 インターネット情報整備 等	1.13	0.54
16	輸入急増農産物対応 特別対策事業	J A大井川アメリ ラ会	産地改革推進協議会の開催 販売戦略検討会の開催 マーケティング調査 PRビデオ製作 等	(1.21)	(0.6)

注：平成16年度の事業費及び国庫補助金額は未確定

4. 今後の課題とその取組方向

夏秋期の尻腐れ果発生による生産量低下や糖度不足果等品質低下が現在の大きな課題です。その対策として、給液方法の改善や培地の改良等の栽培技術に関する研究を進めています。また、ハウス内の大量換気を図るため換気扇の数を増やしたり、複合環境制御システムを導入し、尻腐れ果発生を低減させていく必要があります。

一方、販売面では市場や量販店からの要望に応えるべく、出荷情報の提供や需要に応じた出荷量の週間コントロール等に取り組むはじめ成果を上げつつありますが、より信頼される産地を目指して迅速な情報提供（出荷情報、クレーム処理等）と精度の向上を図っていきます。

【特記事項】

## 産地改革・取組フォト



### 人工光閉鎖型苗生産システム

生育環境のコントロールにより、計画的に良質な苗が生産され、本ばへ計画どおり定植可能



### 鉢上げの共同作業

各作業の共同化により、短時間で効率良く作業が終了し、人件費低減につながっている



### 一段果房の収穫期

3段の低段どり密植栽培で、水分ストレスを与えて糖度8度以上の高糖度トマトを生産



### 荷姿

1kg/箱のL規格、これを5箱1梱包として、京浜・京阪神を中心とした12市場へ出荷

### < 県・問い合わせ先 >

静岡県志太榛原農林事務所 産地育成課

担当係名(氏名): 天野喜也

住所: 藤枝市瀬戸新屋362-1

TEL: 054-644-9212